

令和7年度学校自己評価システムシート (県立熊谷農業高等学校)

目指す学校像	命を育み 知を磨く学舎づくり (農業各分野の担い手・技術者と、地域を担う人材の育成)
--------	--

重点目標	1 授業や教育活動をととして学習意欲を向上させ、基礎学力の定着と学力の向上を図る。 2 社会人として必要な基本的内容を身に付けさせ、評価される人材を育成する。 3 計画的に効果的な指導を行い、生徒の進路希望を実現させる。 4 地域と連携した活動を行い、地域から信頼される学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	9名
	事務局 (教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				
年 度 目 標			令和7年度評価 (1月26日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	【現状】 生徒は真面目な態度で授業に取り組んでおり、資格取得者数も増加している。 【課題】 生徒の主体的な学びを実現するため、ICTの効果的な活用による授業の質の改善や、多様な学習機会の提供を学校全体で推進する必要がある。	教育力の向上	①教科・学科が連携してICTの活用や教材開発に取り組み、組織的に授業改善を図る。 ②「収益力のある農業を学ぶ担い手育成プログラム推進事業」でDX化を図り、スマート農業を推進する。 ③定期考査等で生徒の理解度を把握し、基礎学力の定着と丁寧なフォローで欠点を回避させ、学力向上を図る。	①生徒の授業満足度の割合。 ②農業科目で、ICTが効果的に活用されたか。 ③成績優良者数と欠点取得者数の増減。
		学習意欲の向上	①生徒が主体的に学べるよう、ICTや学習サポーターを活用した学習機会を増やす。 ②学校農業クラブ活動を計画的に行い、専門的な知識や技術を高めることで、生徒が自ら考え実践する力を養う。	①自学自習に取り組んだ時間の割合。 ②学校農業クラブ活動における県大会、関東大会、全国大会への出場者数の増減。
2	【現状】 組織的な生徒支援により、規範意識を持ち、基本的生活習慣が身についた生徒が増えた。 【課題】 遅刻や整容指導等においては引き続き組織的に取り組むとともに、生徒の主体性を高める生徒指導も必要である。また、多様な生徒に対応するため、個々の状況に合わせた柔軟な支援体制の構築が課題である。	時間厳守と自己管理の徹底	①授業・行事は定刻に開始し、チャイム着席を徹底する。立哨指導と遅刻カードで遅刻生徒を把握し、個別指導を行う。 ②ネットトラブル防止やSNSのマナー教育をととして、生徒の主体性を育む。	①遅刻者数の増減。 ②生徒と教員間でスマホ利用について意見交換を行い、マナー教育に取り組めたか。
		支援の充実	①特別支援教育委員会を中心とした組織的な教育相談を進め、生徒個々に応じた柔軟な支援を充実させる。 ②生徒情報等は学年・学科で共有し、管理職へ報告、連絡、相談する組織的な体制で支援にあたる。	①SCやコーディネーター等を活用した支援は適切に実施されたか。 ②組織的な支援体制が機能したか。
3	【現状】 年間計画に基づき、生徒個々の希望に応じたきめ細かな進路指導を展開している。 【課題】 農業への学習意欲は高いが、卒業後の進路に結びついていない。専門分野への進路意識を高めるため、進路情報の提供体制の整備や、段階的な進路計画の策定が必要である。	進路希望の実現	①進路に関する情報収集、分析、準備を生徒が主体的に行えるよう計画し、保護者にも情報共有することで進路実現をサポートする。 ②就職支援アドバイザーを活用し、学校全体で面接指導、論文指導、補講等を実施する。	①生徒は自身の進路実現に向けて積極的に情報収集できたか。 ②第1志望の進路が実現できたか。
		農業関連分野への進路意識の向上	①「収益力のある農業を学ぶ担い手育成プログラム推進事業」で、農業法人や農業関連団体による講演・出前授業を実施する。 ②1年生の校外農業実習をきっかけに、3年間で段階的に生徒の農業関連分野への興味・関心を高める。	①農業関連分野への進路希望者数。 ②生徒、実習先のアンケート結果。
4	【現状】 HPやSNSでの定期的な情報発信に加え、地域連携や交流事業等も積極的に進んでおり、地域から信頼を得ている。 【課題】 本校の魅力を積極的に発信するとともに、生徒視点での学校PRや、実際に来校してもらう機会を増やすなど、広報活動の工夫・改善が必要である。	情報発信と情報提供	①HPやInstagram等において、定期的に生徒視点による本校の魅力を発信する。 ②学校説明会、体験入学、部活動体験等を通じて、本校のイメージや認知度を拡大するのに効果的なPRを行う。	①学校情報の発信回数 ②中学生向け行事に参加した中学生の志願状況。
		開かれた学校づくり	①農業高校の実際を知ってもらうため、授業公開を増やす。 ②地域イベントや異校種間連携等の交流事業を積極的に実施することで、生徒の学習意欲向上に結びつける。	①中学校関係者・中学生の授業公開への参加状況。 ②地域連携が、生徒の学習意欲向上につながったか。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和8年1月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲が高まっており、入学後も主体的に学習に取り組んでいる。 ・授業満足度・理解度が共に9割を超えている点は、教員の指導力の高さを示す成果となった。成績優良者の増加と欠点取得者の減少という数値にも、学習意欲の向上が明確に表れている。 ・次年度の課題として、個人用端末の使用頻度と家庭学習を習慣化へつなげる工夫が重要である。ICT活用を授業内のみならず、自学自習を支えるツールとして定着させることが、次年度へのポイントとなる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会人にとって遅刻は許されない」という職業教育の視点を継続的に根気強く進めてもらいたい。 ・スマートフォン利用に関する意見交換を実施した点は前進であるが、マナー定着にはさらに工夫が必要である。生徒が自律的に学校生活を送ることを期待する。 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターとの連携が機能しており、教育相談や授業観察が効果的に行われており、生徒や保護者の安心感につながっている。 ・学年と生徒指導部の報告・連絡・相談が円滑に行われ、組織的な生徒指導体制が整いつつある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報のデジタル化により、生徒が主体的に情報収集できる環境が整い、進路決定率98.1%という高い成果につながった。 ・就職支援アドバイザーと学年が連携し、面接練習を徹底したことで、第1志望決定率91.3%という進路実現が図られた。 ・校外農業実習が「進路決定に必要不可欠」と評価され、地域連携した実習が生徒の職業観育成に寄与している。実習の充実が進学意欲の向上につながっているが、今後は就職においても実習経験が直接マッチングにつながるよう、さらなる工夫を期待する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramのフォロワー数が1,900名を超えている事実は、学校の魅力が学内外へ効果的に発信されている証拠である。常に新しい情報を発信し続ける姿勢は、学校の「今」を伝える上で有効だと感じた。 ・企業との共同開発は、生徒に実践的な学びの場を提供するだけでなく、学校のイメージアップと認知度向上につながっている。 ・オンラインショップ (ECサイト) を通じた直接販売が主流になりつつある。販売形態を授業に取り入れることで、生徒に農業経営やマーケティング手法を学ぶ機会をぜひ提供してもらいたい。 	